

歴史と伝統の町 今津の地車改修

今津地車瓦版

だんじり

ご挨拶

今津地域の皆様方におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

平素は今津地車保存会にご理解、ご協力賜りまして厚くお礼申し上げます。

昨年、地域企業、また、地域にお住まりの方々との温かみのご協力を頂きまして二十三年振りに、地車が改修できました事を、この場をお借りしまして改めてお礼申し上げます。さて、この度、古くから今津にある地車をもっと地域の皆様方に知って頂きたく、最近では今津地域に新しく越されてきた方も多く、この伝統ある今津の地車を知って頂く為にごような形で地車瓦版として発行する運びとなりました。微力ながら今津地域発展の為、今津地車保存会が一つになり努力してゆく所存で御座ります。今後とも皆様方の尚一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。ご挨拶に替えさせていただきます。

今津地車保存会

会長 田中良英



発行者
今津地車保存会

今津地車の歩み

今津の地車は明治二十四年十一月制作で、大工棟梁は石川辰治郎、脇棟梁が樫木栄三郎の両師によって製作された。堺市百舌鳥八幡の氏地で中神田（現在は野々宮神社の氏地で堺市深井東町）の地にあつた二台の地車の内の一台を昭和二十年代前半に購入し、牛二頭で引つ張り持ち運んだと伝承されています。この地ではこの二台の地車を「夫婦だんじり」と呼んでいたそうである。今津が購入した方は「嫁さんだんじり」でもう一台は東大阪市若江地区の東ノ町が購入し、現在も曳行されている。また、今津には昔、西ノ町、中ノ町、坊ノ町、馬場ノ町、下ノ町、寺ノ町、上ノ町という七町が屋台の様な小ぶりの地車を保有しており、激しく町中を駆け巡っていた様である。しかし、これらの地車は戦後、解体されてしまい、現在ではその姿をみる事ができない。

尚、今津地車は、昭和六十年に大改修を施し、今回が二十三年ぶりの大改修となり現在に至っている。

だんじり曳行とは氏神である神様を地車に乗って頂き、町中を曳行して家内安全、無病消災、商売繁盛を祈念する事にあります。

平成である現在もその行動は受け継がれており、祭りの華やかさと並行して氏神様が地域を見守っておられます。